歌が結ぶロシアと日本

ビーカとかっちゃんコンサート

東京　調布狛江支部

「ビーカとかっちゃんジョイントコンサート」が7月2日、東京・調布市文化会館たづくりで開かれた。

「サハリンのある村に歌の大好きな少女がいました…」ナレーションに続いて、民族衣装に身を包んだヴィクトリアさんが登場。静かに歌いだす。

ロシアからやって来た少女ビーカが日本の青年かっちゃんに出会い、互いの国の歌と文化をセリフを交えながら紹介し合う。第1部はそんな2人の歌物語だ。

バラライカ、ガルモーシカ、笛、太鼓など、伝統楽器の伴奏も楽しい。

最後に調布狛江合唱団が応援に登場する。

第2部は司会を立てたコンサート形式。ビーカ、かっちゃん、合唱団の3者にギターとピアノの伴奏も加わって、ソロありコーラスありの多彩な内容だ。「百万本のバラ」「一週間」などなじみの曲も多い。聴衆を巻き込んでのパフォーマンスも。

ビーカことヴィクトリア・チェレパーノワさんはサハリン出身。以前は故郷のアンサンブルで歌っていた。張りのある歌声と説得力で、〝クラシック風〟に馴れた私たち日本人の抱くロシア民謡イメージを打ち砕く。

かっちゃんとして親しまれている鈴木勝雄さんは、合唱団や太鼓の指導者として幅広く活躍している。曲作りも手書け、この日も「二人」を披露して大好評。

鈴木さんは「日本語の歌もセリフも次々とこなして行くビーカさんに刺激を受けた」という。

日本人の出演者は「カチューシャ」など一部でロシア語にも挑戦した。

締めくくりにヴィクトリアさんは、演出の白井亮さんらスタッフを紹介、この日のために日本語のセリフを指導して客席にいたご主人の両親にも感謝した。

200人を超える聴衆が集まり、会場はほぼ満席。「ビーカさん素敵！」「かっちゃんいい声ね」「うちの街でもやって」と反応も上々。

コンサート実行委員長の調布狛江支部・古川博資さんは「震災をはさんでつくったコンサート。被災地を訪問出来れば」と語った。（K）

ガルモーシカを手に歌うビーカとバラライカを弾くかっちゃん。合唱団も一緒に。

ハーモニーを奏でるビーカとかっちゃん。2人の息もぴったり。